



Anniversary  
**80**<sup>th</sup>  
キョクヨー



いつも となりに おいしいキョクヨー

# BUSINESS REPORT

第**94**期 報告書

2016年4月1日 ▶ 2017年3月31日

証券コード 1301





代表取締役会長  
多田 久樹

代表取締役社長  
今井 賢司

企業理念

人間尊重を経営の基本に、健康で心豊かな生活と食文化に貢献し社会とともに成長することを目指します。

ご挨拶

株主の皆様には、平素より格別のご高配を賜り、厚く御礼申し上げます。ここに第94期(2017年3月期)報告書をお届けいたします。

おかげさまで当社は今年創立80周年を迎えます。当期(2017年3月期)のキョクヨーグループは2016年6月24日から代表取締役会長多田久樹、代表取締役社長今井賢司の新体制が発足し、塩釜新工場をはじめ、指宿食品(株)及び極洋水産(株)惣右衛門工場の本格稼働を進める一方、海外生産工場の収支改善、米国など海外での販売拡大を図り、国内外で事業拡大に向けた施策を積極的に行いました。

既にスタートした第95期(2018年3月期)は中期経営計画「バリューアップ・キョクヨー2018」の最終年度となります。

引き続きキョクヨーグループは「魚に強い総合食品会社として、収益基盤の安定と変化への対応力を高め、新たな価値を創造する企業を目指す」という基本方針のもと、「グローバル戦略」「シナジー戦略」「差別化戦略」により、これまで以上にスピード感を持った事業運営を行い目標達成に向けて邁進してまいります。

株主の皆様におかれましては、引き続き多大なるご支援、ご協力を賜りますようお願い申し上げます。

2017年6月

中期経営計画「バリューアップ・キョクヨー2018」の進捗状況と目標達成に向けて

当期(2017年3月期)の概況

当連結会計年度におけるわが国経済は、雇用・所得環境の改善が進む一方、個人消費の低迷に加え、中国をはじめとする新興国経済の成長鈍化や保護主義の台頭を含む欧米の政治リスク等が世界の实体经济に及ぼす影響が懸念されるなど、依然として不透明な状況が続いております。

水産・食品業界におきましては、食の安心・安全に対する消費者の関心は高く、さらに少子高齢化による国内マーケット環境の変化や人手不足による労働コストの上昇に加え、世界的な水産物需要の増大による買付コストの上昇など、厳しい状況が続いております。

主な連結財務指標

売上高



経常利益/売上高経常利益率



親会社株主に帰属する当期純利益



このような状況のもとで、中期経営計画『バリューアップ・キョクヨー2018』の2年目として、『魚に強い総合食品会社として、収益基盤の安定と変化への対応力を高め、新たな価値を創造する企業を目指す』ことを基本方針とし、目標達成に向けて取り組んでまいりました。

その結果、当社グループの売上高は2,365億61百万円(前期比4.4%増)、営業利益は37億23百万円(前期比53.0%増)、経常利益は37億9百万円(前期比31.8%増)、親会社株主に帰属する当期純利益は24億22百万円(前期比34.6%増)となりました。

各セグメントの状況は以下のとおりです。

**水産商事セグメント**では、全体として魚価が堅調に推移し、鮭・鱒・エビ等の取扱いを伸ばしました。またサバなどの凍魚加工品や定塩鮭製品、むきエビ等の付加価値製品の拡販に努めました。海外での水産物販売についても中国や米国マーケットでの拡販に努めました。この結果、この部門は売上・利益ともに前期を上回りました。

**冷凍食品セグメント**では、寿司種を中心とした生食用商品及び『だんごり上手』シリーズなどの加熱用商品の拡販に努めました。またエビ加工品やカニ風味かまぼこの販売が伸長しました。家庭用冷凍食品では商品群を増やし、塩釜新工場製品の販売も伸長しました。ホタテの原料価格高騰などにより、この部門の売上は前期を下回りました。

が、直系工場製品の拡販に努めた結果、利益は前期を上回りました。

**常温食品セグメント**では、サバやイワシなどの水産缶詰の拡販に努めるとともに、価格改定や商品集約などを図りました。また、海産珍味類の販売は大手コンビニ向け製品を中心に順調に推移しました。この結果、売上は前期を上回りましたが、海産珍味類の原料であるイカの不漁に起因した原料価格高騰により、利益は前期を下回りました。

**物流サービスセグメント**における冷蔵倉庫事業は、入庫貨物の確保を図り、引き続き営業力強化と事業の効率化に努め、売上・利益ともに前期を上回りました。一方、冷蔵運搬船事業においては、長引く海運市況の悪化により、全ての所有船舶の売却を行いこの事業から撤退いたしました。この結果、この部門は売上・利益ともに前期を下回りました。

**鯉・鮪セグメント**における加工及び販売事業は、引き続き地中海本鮪やインド鮪等の取扱いを伸ばし、外食、量販店向けに拡販を図りました。養殖事業は、漁場や漁獲規制が厳しくなるなか天然種苗の確保を図るとともに、来年度の完全養殖魚初出荷に向けて養殖技術向上に努めました。海外まき網事業は、東沖操業の不漁により水揚げ数量が減少したものの、魚価は昨年に比べ高値で推移しました。この結果、この部門は売上・利益ともに前期を上回りました。

### 次期(2018年3月期)の計画目標

次期におけるわが国経済は、緩やかな回復基調が見込まれるものの、世界経済の不確実性など先行きは不透明な状況にあります。水産・食品業界におきましても、原材料価格の高止まり、加工コストの上昇や企業間競争の激化など、引き続き厳しい経営環境が想定されます。

このような状況のもと、当社グループは中期経営計画

『バリューアップ・キョクヨー2018』の最終年度を迎え、目標達成に向けて取り組んでまいります。次期の連結業績は、売上高2,500億円、営業利益40億円、経常利益40億円、親会社株主に帰属する当期純利益27億円を見込んでおります。

#### 純資産

(百万円)  
30,000



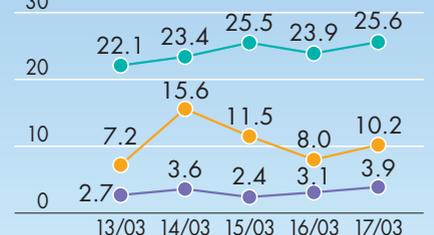
#### 総資産

(百万円)  
100,000



#### 自己資本比率/自己資本利益率(ROE)/ 総資産経常利益率(ROA)

(%)  
30



2016年

4月

5月

6月

7月

8月

9月

10月

11月

12月

2017年

1月

2月

3月

# TOPICS

2016.4-2017.3

## 新しい経営体制 がスタート

第93回定時株主総会での決定をへて、多田久樹会長、今井賢司社長による新体制が発足いたしました。

## 極洋水産(株) 惣右衛門工場を設立

需要が拡大するネギトロ製品を原料の調達から生産、販売まで一貫して行う、冷凍ネギトロに特化して機械化した工場を原料集積地の焼津地区に設立いたしました。

## 冷蔵運搬船事業を整理

海運市況の悪化などにより、事業の見直しを進めた結果、冷蔵運搬船事業を整理することとし、保有冷蔵運搬船3隻の全てを売却いたしました。

## 指宿食品(株)が 対米HACCPを取得

鹿児島県の指宿食品(株)がカツオ・マグロのロイン加工及びタタキ加工についての対米HACCPの認証を取得いたしました。

## 日本カヌー連盟への 協賛を発表

創立80周年を迎えるに際して、これまでも親しみの深かった公益社団法人 日本カヌー連盟のオフィシャルパートナーとして、日本代表選手をはじめ同連盟の活動を応援、サポートしていくことを決定いたしました。

## 記念配当について

当社は、平成29年9月に創立80周年を迎えます。

これもひとえに株主の皆様をはじめ、関係各位のご支援の賜物と心より御礼申し上げます。

つきましては、株主の皆様のご支援に感謝の意を表するため、平成29年3月期の期末配当金について、1株当たり10円の記念配当を実施させていただくことと致しました。

これにより、平成29年3月期の年間配当金は普通配当50円と合わせ60円となる予定です。

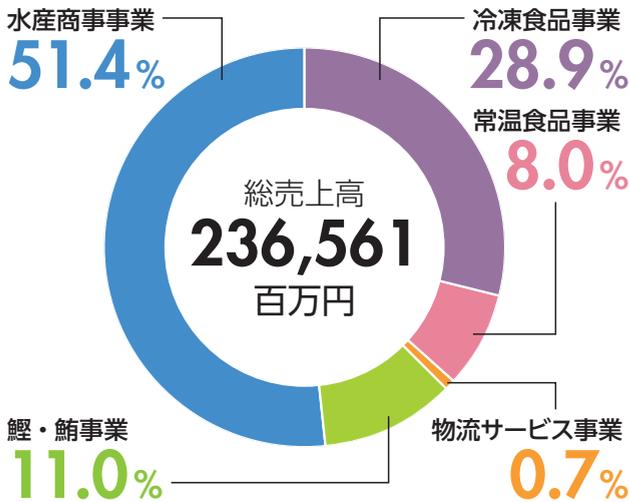


80周年ポスター



80周年記念広告

セグメント別売上高構成比



● 水産商事事業

- 売上高 121,420 百万円
- 営業利益 2,918 百万円

国内外の支社、営業所、駐在員事務所、関係会社の相互連携により、世界の海から質の高い水産物を安定的に調達するとともに、切身製品やカニ、エビの剥き身製品などを提供しています。

また、日本国内で漁獲された魚類の輸出や三国間貿易を積極的に行い、水産物の有効利用と資源循環型社会の実現に努めると同時に、魚食のグローバル化へも対応しています。



定塩紅鮭フィレ

● 冷凍食品事業

- 売上高 68,304 百万円
- 営業利益 655 百万円

寿司種を中心とした生食用商品を外食チェーンなどへ販売しているほか、業務用加工品「だんどり上手」シリーズや煮魚、漬け魚などの加熱用商品を高齢者施設や宅配向けに販売しています。

また、水産フライ類やカニ風味かまぼこをはじめ、畜肉製品や冷凍野菜などを外食ルートや量販店惣菜売場向けに販売しています。家庭用冷凍食品は「シーマルシェ」ブランドをはじめ、首都圏を中心に大手量販店での販売が拡大しています。



だんどり上手 赤魚みぞれ煮(骨なし)

● 常温食品事業

- 売上高 18,816 百万円
- 営業利益 102 百万円

1949年の缶詰製造から始まった長い歴史を持つ事業です。現在ではサバ、カツオ、サケなどの魚缶詰のほか、畜肉缶詰なども取りそろえ、「シーマルシェ」ブランドの商品もラインアップして製品力の強化を図っています。また、グルコサミンやDHAなどの健康食品、海産調味料も販売しています。



(左)海から生まれたグルコサミン (右)シーマルシェさば煮付(ノルウェー原料)

● 物流サービス事業

- 売上高 1,604 百万円
- 営業利益 138 百万円

冷蔵倉庫事業を中心に東京の大井及び城南島、大阪、福岡の4事業所体制でロジスティクス・サービスを提供しております。



キョクヨー秋津冷蔵(株) 城南島事業所

● 鯉・鯖事業

- 売上高 26,009 百万円
- 営業利益 696 百万円

カツオ、マグロの漁撈・養殖から買付・加工・販売までを一貫して手掛けています。カツオについては、当社グループ所有のまき網船「わかば丸」など独自の調達力があります。マグロについては、限りある水産資源の保護と安定的供給のために、四国で養殖事業を展開し、オリジナルブランド「本鮪の極」はお客様から高い評価をいただいています。また、天然稚魚に頼らない完全養殖魚も順調に成育しております。



完全養殖クロマグロ

● **会社概要** 2017年3月31日現在

社名 株式会社 極洋  
 英文社名 KYOKUYO CO., LTD.  
 本社所在地 〒107-0052 東京都港区赤坂三丁目3番5号  
 設立 1937年9月3日  
 資本金 56億6千4百万円  
 主要な事業内容 水産物の輸出入・国内買付販売、加工食品及び冷凍食品の製造販売  
 従業員数 2,193名(連結) / 610名(個別)  
 連結対象会社数 25社

● **役員の状況** 2017年3月31日現在

役員  
 代表取締役会長 多田 久樹 取締役 青木 宏行  
 代表取締役社長 今井 賢司 取締役 芥川 淳  
 常務取締役 雲津 雅行 取締役 三浦 理代  
 常務取締役 井上 誠 常勤監査役 中山 昌生  
 常務取締役 矢澤 久和 常勤監査役 田村 雅治  
 常務取締役 酒井 健 監査役 上居 隆治  
 取締役 松行 健一 監査役 首藤 健治  
 取締役 天利 均

● **株主優待のご案内**

当社は、株主の皆様からの日頃のご支援に感謝するとともに、当社株式の魅力を高め、当社株式を保有していただける株主の増加を図ることを目的として株主優待制度を実施しています。

**平成29年の株主優待の内容**

対象株主 平成29年3月31日現在の当社株主名簿に記載された1単元(100株)以上所有の株主様  
 優待の内容 5,000円相当の当社製品を贈呈  
 贈呈時期 平成29年7月予定

**平成30年以降の株主優待の内容**

対象株主 および優待の内容 ●毎年3月31日現在の当社株主名簿に記載された1単元(100株)以上3単元(300株)未満所有の株主様には2,500円相当の当社製品を贈呈  
 ●毎年3月31日現在の当社株主名簿に記載された3単元(300株)以上所有の株主様には6,000円相当の当社製品を贈呈  
 贈呈時期 毎年7月予定

● **株主メモ**

事業年度 4月1日～翌年3月31日  
 定時株主総会 毎年6月  
 定時株主総会基準日 3月31日  
 期末配当金基準日 3月31日  
 公告方法 日本経済新聞  
 株主名簿管理人および特別口座の口座管理機関 三菱UFJ信託銀行株式会社  
 同連絡先 〒137-8081 東京都江東区東砂七丁目10番11号 三菱UFJ信託銀行株式会社 証券代行部 電話：0120-232-711(フリーダイヤル)

(ご注意)

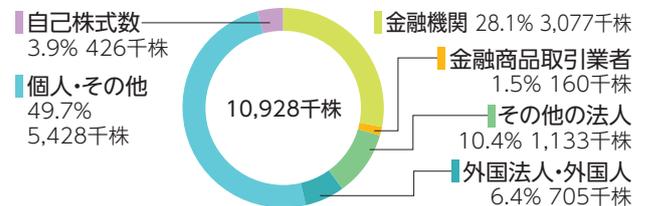
- 株主様の住所変更、買取請求その他各種お手続きにつきましては、原則、口座を開設されている口座管理機関(証券会社等)で承ることとなります。口座を開設されている証券会社等にお問合せください。株主名簿管理人(三菱UFJ信託銀行)ではお取り扱いできませんのでご注意ください。
- 特別口座に記載された株式に関する各種お手続きにつきましては、三菱UFJ信託銀行が口座管理機関となっておりますので、上記特別口座の口座管理機関(三菱UFJ信託銀行)にお問合せください。なお、三菱UFJ信託銀行全国各支店にてもお取り扱いいたします。
- 未受領の配当金につきましては、三菱UFJ信託銀行本支店でお支払いいたします。

● **株式の概況** 2017年3月31日現在

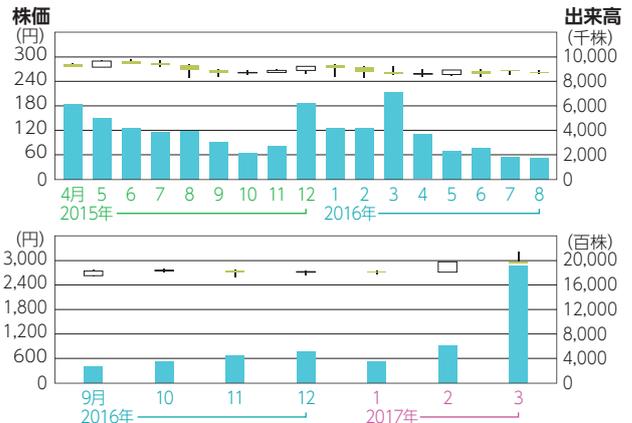
発行可能株式総数 43,700,000株  
 発行済株式の総数 10,928,283株  
 株主数 32,858名  
 大株主

株主名	持株数(千株)	持株比率(%)
日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社	923	8.44
株式会社りそな銀行	523	4.78
農林中央金庫	523	4.78
東洋製罐グループホールディングス株式会社	315	2.88
三井住友海上火災保険株式会社	250	2.28
東京海上日動火災保険株式会社	224	2.05
極洋秋津会	168	1.54
中央魚類株式会社	139	1.28
三井住友信託銀行株式会社	121	1.11
三菱UFJ信託銀行株式会社	120	1.09

所有者別株式数分布状況



株価及び出来高の推移



※2016年10月1日に株式併合を実施。

**WEBサイトのご案内**

キョクヨーのこだわりや企業情報、商品紹介、IR関連などの最新情報を掲載しております。また、皆様のご意見やご質問などをお受けするお問い合わせフォームも用意しておりますので、是非ご利用ください。



<http://www.kyokuyo.co.jp>

キョクヨー

検索